



| 実施期間

令和7年11月26日～12月25日

| 意見提出状況

19人(2団体、こども8人含む)

延べ32件(選択肢設問による子どもの意見8件、素案と直接関係のない意見2件を含む)

提出者	全体	個人	一般	こども	団体等
	19	17	9	8	2

意見を受けて案を修正するもの	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの	案を修正しないが今後の施策の進め方等の参考とするもの	案に取り入れないもの	案の内容についての質問等
2	7	15	1	3

※こども向けパブリックコメント提出者のうち、2名は素案に対する意見なし



| 主な意見

(策定の考え方)

- 道民の安心・安全に対する観点をもっと重視すべき。
- 外国人を引きつけ共生する地域づくりや投資・産業の呼び込みは人口減少が進む中で現実的かつ重要な方向性だと感じた。
- これまでの「先進国中心」の考え方では通用しなくなりつつあり、北海道も柔軟に相手を選び直す必要がある。

(個別施策)

- 深刻な保育士不足の解消を子どもたちの未来を拓く『攻め』の施策へと転換することを提案。具体的には、外国人の保育サポート人材を導入すべき。
- 外国人材の地域おこし協力隊への積極的な採用など外国人材を「地域の担い手」として活用する仕組みづくり。
- 日本語ボランティアに大変お世話になった。レッスンが無料だったので安心した。こうした情報をもっと広く知ってもらうことは有益。

(子ども意見)

- 北海道に来る人に日本のマナーを説明することも大事。
- 学校で外国語の勉強や外国に行ったりできるようになるのは良い。